

(11) オピニオン 平成15年(2003年)9月4日(木曜日)

**韓国大統領の提案**

北朝鮮の核開発問題をめぐる六カ国協議が今夏、北京で行われました（八月二十七日から三十九日）。一応、核問題の平和解決に向けた協議継続などで合意して終了しても、具体的な案件は何ら実現していません。しかし、この協議が国内外の強い関心を高め、いろいろな言及がやかましく繰り返されたことを見逃すことではできません。

ところが、私はこうした現在的緊急課題を前にして、東北アジアの平和を考えるためにあたって、根源的で広範な問題への対応を提起する意味で、韓

## 【オピニオン】

河部 利夫

「私は、第二次世界大戦が終結した翌年に生まれた『戦後世代』である。日本訪問が決まり、多くの人から『過去の歴史問題をどうするのか』と質問を受けた。しか

活発化のために言及したのが、「羽田—金浦間のシトル便」でした。「シャトル便」は、東北アジア経済協力民間協会の国際会議（一九九六年、ソウル）で提唱されました。明治（二〇〇〇年六月十五日）は感動的な表現です。彼は、月の就任演説のなかで、東北アジアの「地域間」が実現します。今や、単一ナショナリズムは、終わりを告げようとしています。昨年八月、アフリカにもAU（アフリカ連合）が実現しました。世界は「国際」から「地域」に向かっています。

（元東京外国语大学教授）

## 東北ア「地域際」具体化を 日韓トンネル建設など通じて

国の大統領の訴えを取り上げました。去る六月初め、来日した新大統領・盧武鉉（ムヒヨン）氏は国会演説（六月九日）のなかで、次のごとく述べています。て、ヒト、モノの交流のある「東北アジア地域協定」は、大統領の意願で便」は、大統領の意願で通の提案であります。北朝鮮の金正日総書記との

空機などの特定区間の往来も、十七回も繰り返したと報道されています。そこで、想い出されるのは、前大統領・金大中の「日韓トンネル」開拓をつなげれば、ロンドンやパリにも届く。物流費用は三割節約できる。日本との間に海底トンネルをつければ、日本の列車も欧洲まで行ける」と力説しました。しかも、この構想は、既に八〇年代初めから日本、韓国の民間レベルで高まっており、私自身、関与する東北アジア経済協力民間協会の国際会議（一九九六年、ソウル）で提唱しました。ことがあります。

地域主義の脱却を

まさに「地域協力」の世界的傾向のなかにあって、いまだに実現されていない、東北アジアの「地域主義」（Regionalism）は、東北アジア五

力国民族と米国の緊急課題であり、平和と繁栄の共生主義への悲願であることを痛感すべきではないでしょうか。